
やることないので、ネギまの世界で × × × holic まがいの事をやってます

加納 縦

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

やることないので、ネギまの世界でxxxholicまがいの事をやっています

【Nコード】

N8972Y

【作者名】

加納 縦

【あらすじ】

初作品です

不老チートと物作りチートで
する事のない主人公がxxxholicまがいの
事をしてダラダラと生きていく話です

文才がないですが、其れでもよろしければ
どうぞ

プロローグ（前書き）

初作品です

プロローグ

【ゴツメーン暇だから、殺して
転生させるから、神権限で。
っていつてもわかんないか、
今死ぬ1秒手前だから】

ほら、死んだ

side 青年

ああ、今日も一日疲れた…
早く帰って寝よう、其れが一番だ！

っと思つて居たのに、

気づいたら森の中だった…

「わけ分からんことこだ？」

うん？紙に何か書いてあるな、どれどれ…

【ここは、ネギまの世界です
テンプレの所謂トリップです

お約束の特典は

不老と物作りのチート以上2つです
では、頑張つて生きて下さい

時代は原作の1000年前です】

……マジデ……

⋮

プロローグ（後書き）

頑張ります

プロローグ2（前書き）

駄文です

プロローグ2

s a d e 追われている少女

「はあ…はあ…誰か」

どこか隠れる場所を探さないとう！

ダン！

「ああ…」

ついにみつかってしまった…また、殺される

「見つけたぞ吸血鬼め！ 死ね！魔法の射手 光のつが！」

「おいおい…幼女相手に何やつとるんだお前は」

そう言って着物を来た青年はその男を投げ飛ばした

「助けてくれるの？」

ここ人は、私が吸血鬼だと言う事を知らないんじゃないだろうか…

「いや…普通人が襲われてたら、助けるだろ…」

「そいつは人間じゃない！「やめて！！

言わないで！！」吸血鬼だ！」

ああ…せつかく助けてくれたのに…また、逃げないと…
この人にも殺される…

「だから何？」

「「は？」」

「吸血鬼だぞ！人間じゃない化け物だ！」

「いや…そんな事言われても、

俺自身軽く400年位生きてるしなあ…」

ええ！！この人も吸血鬼？なのかな…

「なつてめえも化け物か！！来れ雷精ウエニアント・スーリトゥス風の精（アエリアーレス・

フルグリエ…「遅い！白き雷！！」

なつ無詠s…」

魔法使いは言い終わる前に跡形もなく青年の魔法でけしとんだ…

s a d e 着物を来た青年

どうも400年ぶりです

え？とびすぎ？気にするな俺は気にしない

それにしても吸血鬼になんぞ初めて見たな

やっぱり心臓に杭を刺さないと

死ななかつたり、蝙蝠なつたり、

処女に血を吸つたりすんのかね

「そこんとこどうなの？」

「え？なつ何ですか？」

「いや、こつちの話だ気にするな」

「はあ…」

「んじゃ、帰るわ、
ま、魔法使いとか、魔女狩りとかに
気よつけるよ」

「あの、待って下さい!!」

「ん？何？」

「あなたは私と同じ吸血鬼何ですか？」
ああ…その事が…

「いや、ただの不老なだけの人間だよ」
まあ、一応人間だ、龍とか殺せるけど。

「私を連れて行つて下さい！
いつも命を狙われてるんです…」

「ふむ…（まあ、魔法を一通り
教えるかわりに仕事の手伝いをさせるか…）
一応一流と呼ばれるぐらいには
鍛えてあげよう
何、お互い不老だ時間はたっぷりある
その対価として俺の店で働いてもらう
事になるが、いいか？」

「はい!!よろしくお願いします!!
私の名前は
エヴァンジェリン・A・K・マクダウエル
と言います」

「ああ、よろしく

俺の名前は ナナシ だ」

ちなみに名前の由来は名無しからだ

「それじゃあ、行こうか」

「はい！」

プロローグ2（後書き）

余談

エヴァ「ところでこんなところで
なにしてたんですか？」

ナナシ「ああ、仕事帰りだったんだが、
迷ってしまつてな 1年間ぐらい
この辺をうろちよろしてた」

エヴァ「帰れるんですか？
それって、激しく不安なんですけど」

ナナシ「……………行こうか」

エヴァ（本当に大丈夫かな？）

さらに1ヶ月迷ったのち帰れました

たららら〜

エヴァは

サバイバル技術を手に入れた！

簡単な料理ができるようになった！

太陽で時間がわかるようになった！

方位磁石なしで

東西南北がわかるようになった！

仕事と言つ名の趣味とその対価（前書き）

ご都合主義発動！ぶっちゃけ安心院さん

仕事と言つ名の趣味とその対価

「さて、まずは俺の仕事がなんであるかを知ってもらおう

まあ、仕事と言つより趣味に近いんだがな」
「そう言つとナナシは

金属製の名刺を取り出した

「これに魔力を流すと転送陣が作動してここに繋がる仕組みだ」

「へえ、便利ですね、つて言うか、それじゃあ、

何であの時あんなところに居たんですか？」

「ああ、それは魔法関連じゃない一般人も中にはいるからな

お前とあつた時は、
そつちの客だつたんだよ」

「あ、そうなんですか」

「で、肝心の仕事内容だが、それは『対価を払えばどんな願いも叶える店』だ。」

「何でも、ですか？」

「ああ、何でも、だ。

お前とあつた時の依頼は『王の病気を治す事』だつたな。

対価は

王家に代々伝わる秘宝、
呪われた剣、

国家予算の10分の1以上この三つだ」

それを伝えると

「いくらなんでも

もらいすぎじゃないですか？」

とエヴァは顔を引きつらせていた

それを見てナナシは

「仕方ないだろう、不治の病だったし

王が死ねば王家の血筋が途絶えたんだから」
と苦笑をしていた

「ちなみに魔法は使っていないぞ

純粋な医療で治したからな。

魔法は使っていないぞ

この時代だ、魔法を安易に使えば
捉えられて、火炙りの刑だな」

そう伝えると

エヴァは顔を自分の立場を思い出したのか
顔を青くしていた

「と、ところで対価ってやっぱり
お金ですか？」

「いや、金は寧ろほとんどない
俺がもらうのは、その時々で違うが

よくもらうのは『人の才能』だな」

そう言つとエヴァは

「人の才能何て

どうやってもらうんですか？」

と、首を傾げていた

「俺のオリジナルの魔術でな、才能をストック出来るんだ。

『人にものを教える才能』は10年前に
対価で貰ったからな、

大体普通の半分の時間で

お前を一流に出来るよ

ちなみに、お前の対価は修行が終わるまで

俺の仕事を手伝う事だ、

掃除、洗濯、料理こみで」

そう伝えるとエヴァは慌てて

「私は家事なんて出来な「覚えろ」…はい」

「よし、それじゃあ、明日から

修行（と言つ名のいじめ）の開始だ！

エヴァンジェ「エヴァ（何かしら

凄い寒気が）」…エヴァ」

仕事と言つ名の趣味とその対価（後書き）

余談

エヴァ「そんな便利なカードがあるんならそれ使つて帰ればよかったじゃないですか」

ナナシ「！そういえば…」

エヴァ「（もしかしてバカなのかな…）
しっかりして下さい…」

たららら～

ナナシにバカ疑惑がかかった

エヴァは

不安をつのらせた

苛立ちを覚えた

ツツコミ（初級）を覚えた

いじ……………修行の開始だ（前書き）

星光様ありがとうございます

修行）と言う名のいじめ（が開始です

いじ……… 修行の開始だ

ダイオラマ魔法球にて

「僕と契約して魔法少女になつてよ」

開始早々誰だコレと思うが、ナナシである

「何ですかそれ… って言うか、

私契約一応、してますよね」

半目になっているエヴァはそう答える

「さて、冗談はこれくらいにして

いじ……… 修行の開始だ」

あきらかにいじめと言いかけたナナシ

「いじめって言いそうになりましたよね！

ねえ！！」

「さてこれからやつてもらうのは

この魔力で動くぬいぐるみ『キュウベえ』に全力で魔力を流してもらう。

これは物凄く、ものすごく燃費が悪い代物だ。俺の全魔力は一般魔法使いの2倍程度

しかないんだが、その俺の全魔力を流して

せいぜい一時間しか動かないように作つてある。」

サラッとナナシはエヴァのツツコミを流しつつ説明をし始めた

「（イラ…）分かりました」

苛立ちを感じつつエヴァは『キュウベえ』に魔力を流した

「魔力を認知しました…撃退を開始しますー

機械的な声が『キュウベえ』から響いた

「は？」

ほおけたエヴァに対してナナシは

「言い忘れたが、魔力が尽きるまで攻撃してくるから、それ。あと、燃費が悪いつてのは嘘だ。今流した魔力量なら24時間は動く動かなくなるまで逃げ続ける。」

しれっとナナシはそう言い

「じゃ、頑張れ」

ニヤニヤ笑いながらそう言ったあとナナシは影から椅子と本を取り出して、座った。

「はあああああああ！！！！！！！」

エヴァが絶叫した直後…バン！と自分の目の前の地面がえぐれた

「あ、それ普通の人間が当たったら

身がえぐれる程度の威力だから。ま、不死だから、大丈夫だろ」

ナナシは本から顔を上げずにそう言った

「……………そう言う事は早く言えええええ！！！！

後せめて顔を見て話せええええええええ！！！！」

そう叫びながらエヴァは走って行った

いじ……………修行の開始だ（後書き）

余談

12時間が経過したころ

ナナシ「ストックしていた本全部読んでしまった……」

止まらない魔弾^{タララララララララ}

エヴァ（半泣きで走っている）

ナナシ「おいエヴァ！俺も参加するわ！

風の精霊100人 魔法の射手・^{サギタ・マキカ}戒めの風矢^{アエール・カフトウーラエ}！！

エヴァ「ふざけるなああああああ！！！！

（ほとんど泣いてる）」

ナナシ「あはははは（笑）逃げろ逃げろ」

エヴァ「え、ちょ、待て……」

ヴァン↑魔弾の射手に捕まった音

エヴァ「うわああああああああああ」

たらららら

エヴァは

尊敬心をなくした

心が荒んだ

言葉使いが荒くなった

心に復讐を誓った

ナナシの魔法量を上回った

呪文：『戦いの歌』を習得した
基本的魔法を習得した

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8972y/>

やることないので、ネギまの世界で×××holicまがいの事をやってます

2011年11月30日21時42分発行